

町制施行 50 周年記念特別展  
「三芳町 半世紀の軌跡」

11/29 (日)まで開催

三芳町立歴史民俗資料館  
月曜・祝日・年末年始休館  
9:00～16:30  
(入館は 16:00 まで)  
三芳町竹間沢 877  
☎ 049-258-6655



軌跡を振り返り、  
未来を考える一。

過去から受け継いだバトンを  
未来へつなぐ

**三** 芳が町になって 50 年、三芳が誕生してからは 131 年。先人から受け継がれた「三芳」というバトンは過去から現在までつなげてきました。その結果、平成 30（2018）年に行われた住民意識調査では、8 割を超える住民が「三芳町に住み続けたい」と回答する、愛着を持たれる町になっています。

三芳町の歩み

都心から 30 km 圏内という好立地に恵まれ、発展を続けてきた三芳町。都市化が進み、利便性が向上したことで街並みは変化しましたが、日本農業遺産に認定された武蔵野の落ち葉堆肥農法や竹間沢車人形、各地域のお

変わる良さ、変わらない良さ

「不易流行」。いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を取り入れていくことを意味するこの言葉は、まさに三芳の軌跡を表しているのではないのでしょうか。

今後変わらず残していきたいもの。新しく変えたいもの。町制施行 50 年の節目の今こそ、三芳を「不易流行」の目で見て、未来につないでいく「私の三芳」をみつめてみませんか。

——特集・終——

町内在住の中学生・高校生からなる地域ボランティアのグループ、「ジュボラ」メンバーの石川さん。



ジュニアボランティアリーダー  
石川 未彩さん

三芳の良さをこの先も。

車人形をやっていた経験もあって、三芳町の歴史については前から興味がありましたが、50 年前の三芳の話はほとんど聞いたことがありませんでした。昔の写真を見ると、今よりも自然が豊かで藤久保に建物が少ないのは驚きました。昔に比べると今は施設も整ってきて便利になり、暮らしやすくなっていると思います。私が思う三芳町の魅力は、都会過ぎず田舎過ぎない丁度よさと人との関わりやすさです。ジュボラとしての活動は来年で終わりますが、その後も青少年相談員になって、この三芳の良さを未来までつなげていきたいと思っています。



▲3 年前の広報みよし平成 29 年 8 月号でジュボラの魅力を語ってくれた石川さん。当時は中学 2 年生でした。

人と人とのつながりを大切に。

私が所属している青少年相談員は、町ができる前の昭和 40（1965）年からの歴史があります。昔から受け継がれている三芳の相談員は現在、県内トップクラスの人数。人数が 1 桁になっている自治体もある中、決して大きくない三芳町で相談員の活動が盛んなのは、昔からのつながりが今も生きて地域に根付いているからだと思います。住民同士のつながり、住民と行政のつながりは、町を挙げた、町全体でのまちづくりを可能にします。時代が変わっても、大切にされてきた「人と人とのつながり」をこれからも大切にしていきたいですね。



▲青少年相談員は年齢、職業が様々な人々が集まり、交流します。こういったところからも三芳の「つながり」が生まれます。

地域の青年リーダーとして町のイベントサポートなどを行う青少年相談員の渡辺さん。



青少年相談員会長  
渡辺 秀行さん



三芳町長  
林 伊佐雄

そこで働く父母の姿は、ミレーの「晩鐘」そのものでした。あれから 50 有余年。都市化の波とともに環境は大きく変化しました。都市基盤整備が進み、利便性がよくなり豊かになった反面、失われたものもあります。しかし、町の至る所で、「まほろば」としての故郷が光り輝いています。当地域は、日本農業遺産に認定され、武蔵野の遊歩道ができました。その平地林の中を歩いていると、いつの間にか私は少年に戻り、先人たちの声が自然の中から聞こえてきます。そこには、三芳町の懐かしき過去があり、輝く今があり、輝き続ける未来があります。うるわしき故郷三芳に、永遠の光あれ。

ふるさと三芳に  
永遠の光あれ

大和は国のまほろば たたなづく青垣山ごもれる大和しうるわし

【古事記】

（大和は国のなかでももつともよいところだ。重なりあった青い垣根の山、その中にこもっている大和は、美しい）

倭建命が詠んだ望郷の歌です。

この歌と出会った時、大和と上富の光景が心の中で重なりました。

少年時代、武蔵野の平地林を愛し、一人でよく歩きました。どこまでも続く平地林。その平地林を抜けると広い田園風景が広がり、平地林と畑が幾重にも重なり、その世界空間の中で生かされています。草木や虫たち、行く雲、青い空、昇る陽、沈む陽、満天の星々と対話し、遠く聳える富士や秩父山脈に見守られていました。

民俗学者の柳田國男は、日本人は、死後、祖先が神となり、里山の上から田んぼを見守り、家々に個々の神が宿ると言いました。

私たちの畑には家墓があり、先祖の御霊と共に生きてきました。